

第68期 中間株主通信

2025年2月1日～2025年7月31日



養命酒製造株式会社駒ヶ根工場内 体験型複合施設「くらすわの森」

To Our Shareholders

株主の皆様へ



株主の皆様におかれましては、日ごろより格別のご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。

代表取締役社長 小林 統

■上半期を振り返って

当中間連結会計期間(2025年2月1日～2025年7月31日)における我が国経済は、米国の通商政策の影響による不透明感がみられたものの、個人消費や設備投資が持ち直し、景気が緩やかに回復するなかで推移しました。

当ディスプレイ業界の事業環境につきましては、活発なインバウンド関連需要に加え、2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)の開催もあり、総じて堅調な状況が続きました。しかしながら、物価上昇や人件費の増加等によるコスト上昇リスクについても、注視する必要があります。

このような状況のもと当社グループは、中期経営計画(2025年1月期～2027年1月期)に基づき、成長軌道に乗せるための基盤整備と新たな領域への投資を行い、更なる企業価値の向上を目標に事業活動を展開してまいりました。

この結果、当中間連結会計期間の売上高は、560億43百万円(前年同期比36.6%増)となり、営業利益は56億15百万円(前年同期比191.4%増)、経常利益は56億70百万円(前年同期比178.6%増)、親会社株主に帰属する中間純利益は38億31百万円(前年同期比158.1%増)となりました。

また、当中間連結会計期間の受注高は521億94百万円(前年同期比9.9%減)となりました。

■通期の見通し

足元の環境については、緩やかな景気回復が続いていることに加え、インバウンド関連投資の拡大も追い風となり、事業環境は想定以上に好調な状態であり、今後も空間づくりの需要は堅調に推移すると考えられます。ただし、下振れリスクとして、物価高の長期化による消費者マインドの悪化、深刻な人手不足による供給制約、海外経済の減速、国際情勢の緊迫化などが懸念されます。

上述の経営環境を踏まえ、当社グループは、中期経営計画(2025年

1月期～2027年1月期)を策定し、堅調な経済環境下での着実な事業成長を実現するとともに、働く環境の改善やマーケティングの仕組みづくりなどの重要課題への対処をはじめ、より長期的に、持続的に成長していくための基盤整備に注力してまいります。さらに、「空間づくり」の可能性を拡げるため、新規事業など、新たな領域への挑戦をしてまいります。

当社グループは、経営上重視すべき指標を連結ROEおよび連結営業利益率としており、中期経営計画期間(2025年1月期～2027年1月期)の目標値としては連結ROE11.0%、連結営業利益率5.8%を掲げております。また、還元目標については配当性向50.0%以上を目標としております。

なお、2026年1月期通期の連結業績予想につきましては、概ね順調に推移しているため、前回の予想から変更はありません。

(百万円)

売上高	営業利益	連結 営業利益率 (%)	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	連結ROE (%)
2025年1月期 実績					
91,858	5,147	5.6	5,316	3,875	11.9
2026年1月期 計画					
100,000	7,500	7.5	7,600	5,200	15.1
2027年1月期 計画					
95,000	5,500	5.8	5,600	3,900	11.0

■配当金について

当期の中間配当金は、1株あたり35円とさせていただきます。また、期末配当金は、1株あたり35円を予定しており、年間配当金は、1株あたり70円となる見込みです。

株主の皆様におかれましては、今後とも、より一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2025年10月

商業その他施設事業

連 結 売 上 高

401億 5百万円 (前年同四半期比 72.6%増)

セグメント利益

50億 26百万円 (前年同四半期比 414.8%増)

商業その他施設事業においては、ホテル、エンターテインメント分野等の新改装案件が増加したことに加え、大阪・関西万博の売上が寄与したことにより、売上高、セグメント利益ともに前年同期を上回りました。

この結果、商業その他施設事業の売上高は401億5百万円(前年同期比72.6%増)、セグメント利益は50億26百万円(前年同期比414.8%増)となりました。



チェーンストア事業

連 結 売 上 高

118億 88百万円 (前年同四半期比 4.5%減)

セグメント利益

8億 74百万円 (前年同四半期比 0.4%増)

チェーンストア事業においては、主に飲食店分野やアパレル分野の一部基幹店の新改装案件が増加し、売上高、セグメント利益ともに堅調に推移しました。

この結果、チェーンストア事業の売上高は118億88百万円(前年同期比4.5%減)、セグメント利益は8億74百万円(前年同期比0.4%増)となりました。



文化施設事業

連 結 売 上 高

38億 2百万円 (前年同四半期比 26.2%減)

セグメント損失

3億 83百万円 (前年同期は30百万円のセグメント利益)

文化施設事業においては、過年度の受注高減少および当期の工事の進捗が想定を下回ったことにより、売上高は減少し、利益面についても売上高の減少に伴い、固定費を賄うには至らず、売上高、セグメント利益ともに前年同期を下回りました。

この結果、文化施設事業の売上高は38億2百万円(前年同期比26.2%減)、セグメント損失は3億83百万円(前年同期は30百万円のセグメント利益)となりました。



その他

連 結 売 上 高

2億 47百万円 (前年同四半期比 32.6%増)

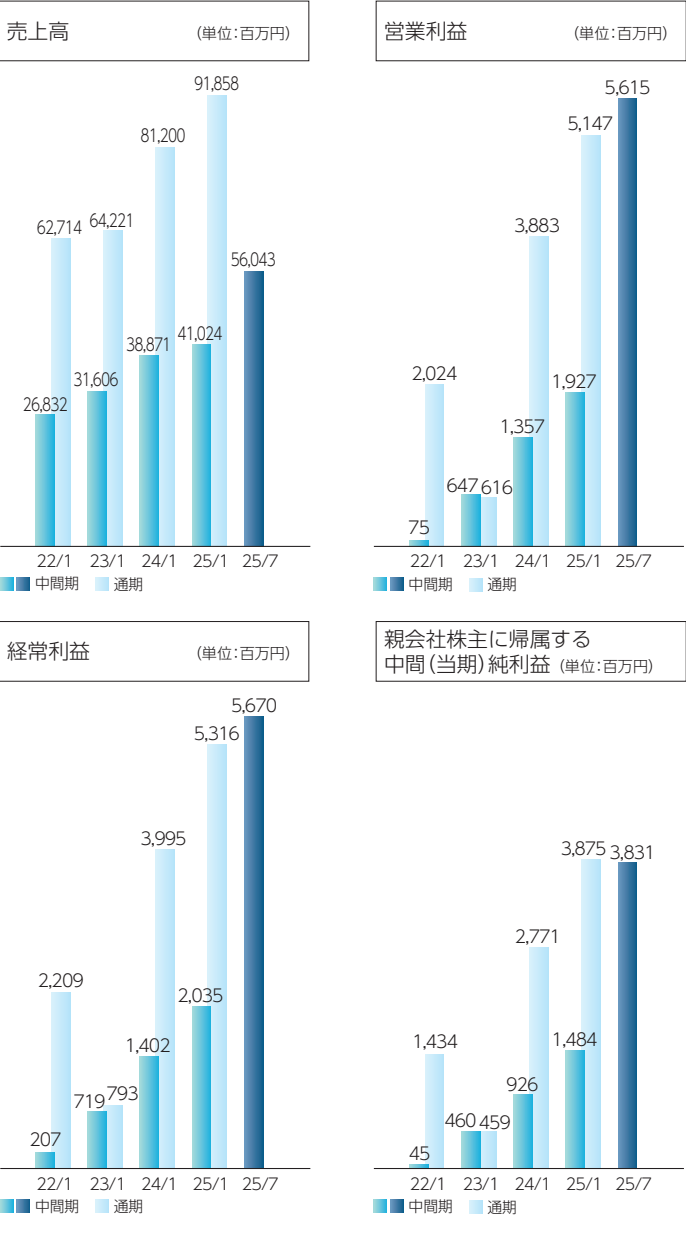
セグメント利益

93百万円 (前年同四半期比 101.6%増)

その他においては、ディスプレイ業以外の事務サービス等は、堅調に推移し、売上高、セグメント利益ともに前年同期を上回りました。

この結果、その他の売上高は2億47百万円(前年同期比32.6%増)、セグメント利益は93百万円(前年同期比101.6%増)となりました。

連結財務ハイライト



連結財務諸表

連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科 目	前期末 2025年1月31日現在	当中間期末 2025年7月31日現在
流動資産	45,251	45,390
固定資産	8,943	9,112
流動負債	19,343	16,761
固定負債	1,481	1,783
純資産	33,370	35,958
総資産	54,195	54,503

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科 目	前中間期 自 2024年2月 1日 至 2024年7月31日	当中間期 自 2025年2月 1日 至 2025年7月31日
売上高	41,024	56,043
売上原価	33,605	44,558
売上総利益	7,418	11,485
営業利益	1,927	5,615
経常利益	2,035	5,670
親会社株主に帰属する中間純利益	1,484	3,831

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科 目	前中間期 自 2024年2月 1日 至 2024年7月31日	当中間期 自 2025年2月 1日 至 2025年7月31日
営業活動による キャッシュ・フロー	332	4,469
投資活動による キャッシュ・フロー	738	62
財務活動による キャッシュ・フロー	△730	△1,458
現金及び現金同等物の 中間期末残高	17,036	20,275

詳細な財務情報は、当社ウェブサイトIR情報をご覧ください。

アドレスはこちら▼

<https://www.tanseisha.co.jp/ir/>

①【事業主】飯田グループホールディングス株式会社【業務範囲】設計・制作・施工

②【事業主】株式会社サタロー【業務範囲】デザイン・設計・制作・施工

③【事業主】台東区【業務範囲】展示企画、デザイン・設計・制作・施工、映像制作

広大な森の中でブランドのファンをつくる「くらすわの森」



森を囲む回廊施設、森に囲まれたライブラリー

2024年10月、長野県駒ヶ根市の養命酒製造株式会社駒ヶ根工場内に体験型複合施設「くらすわの森」がオープンしました。「くらすわ」は「おいしい・たのしい・すこやか」な体験を通じてすこやかなくらしを提案する、BtoCのライフスタイルブランドです。本プロジェクトは「くらすわ」のファン拡大をめざすブランディングの総本山として、2010年に当社が「くらすわ」本店の計画・設計をお手伝いさせていただいた経緯からご依頼いただきました。養命酒製造様は駒ヶ根工場を含む広大な森を所有し、中央アルプスの自然の恵みを活かし商品を製造されています。当社は「創立100年を迎える機に森を活用した事業を具現化したい」とのご意向を伺い、建築工事に着工する2年ほど前から時間をかけて価値観を共有し、施設全体をどう構成にして何をめざすのかというグランドデザインの立案から携わりました。



本プロジェクトでは、まずクライアントと当社によるワークショップを経て、企業の強みや中長期的なビジョンを掘り起こし、基本構想をまとめました。その構想をもとにコンテンツに落とし込み、空間とそれ

を囲う建築、散策道へと逆算的に計画を進めていきました。

こうした手法を採ったことが、結果的に事業デザインの完成度を高めることになりました。

「フォレストリング」は既存の森を囲うようにつくられた全天候型回廊建築です。直径約80メートル、傾斜高約6メートルの回廊はすべてスロープで形成されています。その中に4つのショップやマルシェを分散配置し、冬場や雨の日でも森を近くに感じながら様々な体験ができる施設になっています。「森のライブラリー」は8本の木が立つ真ん中に森を見下ろすように建てられた、2階建てのライブラリーです。9つのテーマで選ばれた約1000冊の本が揃い、自然の中で集中して本と向き合えます。また20年間記念館として親しまれてきた「壺の蔵」をショップに再利用、その並びに創業地に最後まで残されていた蔵を移築してレストランとして活用しているほか、南アルプスを眺める一等地にくらすわ事業の拠点としてオフィスを設け、インフォメーション機能を持たせました。

なるべく木を切らないように地元建設会社と協力

「くわすわの森」があるのは傾斜する山の中です。地形変化が大きい敷地に円形の建物を建てるためには、基礎を打つレベルも含めて緻密な検証が必要です。設計では日常と切り離されないように工場など既存の敷地内施設のデザインとの調和を意識し、企業としての歴史の一貫性が感

じられるように配慮しました。苦労したのが森林の伐採です。というのも、同社が大切に育ててきた森を守りたいという想いに加えて、伐採面積の上限を超えると許可申請の問題で着工が遅れる懸念もあったためです。これについても地元建設会社と協力し、ドローンによる3Dスキャンと合わせ、徹底した現地調査を実施することで伐採面積が最小限となるように辛抱強く解決していきました。



広義の事業デザインができたプロジェクトに

「くらすわの森」はオープンして1年を迎えました。当初の目標を超える来場があり、事業としても、地元からも大変好評です。加えて施設スタッフの意識醸成にも貢献できたと考えております。SNSや運営チームからの情報では、年間を通して地元の皆様と観光客が参加できるイベントを実施されるなど、スタッフの方々からは意識高く「くらすわの森」を皆で盛り立てていく姿勢が感じられ、当社としてもとてもうれしく思います。養命酒製造様からは「次の100年に行うべきこと、育てるべき人材、提供するべき事柄などを始めるにあたり、必要な施設として実現できた」と高く評価していただいております。

養命酒製造様が当社にご依頼いただいた理由としては、「体験から逆算してソフト起点により施設をつくってほしかったから」と伺いました。言葉を換えれば、人と人との関係が活性化する空間づくりが得意である点に期待していただいたということです。クライアントとの長年の信頼関係を通じて伴走型で取り組む当社のスタイルやフィロソフィーがいかに発揮され、ビジネス的な部分を含めた広義の意味での事業デザインが実現できたプロジェクトになったように思います。今後も空間づくりを通じた提供価値にこだわり、さまざまな計画にチャレンジしていきたいと思います。

プロジェクトに携わったメンバー



(写真左から)

営業
デザインディレクター
シニアエキスパート
プリンシパルクリエイティブディレクター

制作
プランナー
営業

小野 徹
立川 美和
中村 恒太
上垣内 泰輔
堤 雅彦
森保 友貴
林 犬

2025年日本国際博覧会のフューチャーライフ エクスペリエンス期間展示に参加しました

当社は、2025年日本国際博覧会のフューチャーライフエクスペリエンス期間展示に参加しました。フューチャーライフヴィレッジにて、未来に向けた「問い」と「提案」として「日本の伝統文化における精神性」を掲げ、現在にふさわしい茶会とアートの展示空間を創出しました。展示では、日本の「アートとしての工芸」を担うアーティストを支援するために当社が取り組んでいる「B-OWND」の試みを紹介し、当社ブースに訪れた世界の



丹青社が携わる、未来を”つくる”美術館「鳥取県立美術館」が開館しました

当社が事業参画している鳥取県立美術館が、2025年3月30日、鳥取県倉吉市に開館しました。公立美術館の新設・運営のPFI事業としては全国初の取り組みとして、鳥取県と共に、10社で構成される特別目的会社（SPC）「鳥取県立美術館パートナーズ株式会社」が事業を推進しています。当社はSPC構成員の一員として、展示設計支援、展示ケース・収蔵庫施工、デジタルアーカイブビューイング企画制作、学芸補助、ポップカルチャー企画展企画実施、開館準備・運営期間における広報・ブランディング、集客促進、飲食物販事業と、幅広く携わっています。



す。今後もさまざまな空間づくりや施設運営・プロデュース事業で培ってきた知見やノウハウを生かし、地域に貢献し、誇りとなる施設の実現を目指してまいります。

ウェブサイトのご案内

積極的に情報開示を行っております。また、最新の統合報告書は2025年8月に公開しておりますので、当社をよりご理解いただくためにも、ぜひご利用ください。



<https://www.tanseisha.co.jp>

会社概要（2025年7月31日現在）

商 号	株式会社丹青社
設 立	1949年10月14日
資本金	40億2,675万657円
従業員数	1,166名（連結1,564名）

役 員（2025年7月31日現在）

代表取締役社長	小林 統	社外取締役	板谷 敏正
取締役	森永 倫夫	取締役 常勤監査等委員	菅野 敦夫
取締役	深谷 徹	社外取締役 監査等委員	吉井 清信
取締役	津久井哲雄	社外取締役 監査等委員	槇原耕太郎
取締役	野村 英司	社外取締役 監査等委員	保坂 理枝

株式の状況（2025年7月31日現在）

株式の総数	
発行可能株式総数	187,200,000株
発行済株式総数	48,424,071株
株主数	19,844名
大株主	

株主名	持株数	持株比率
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	6,356千株	13.2%
株式会社日本カストディ銀行（信託口）	2,457	5.1
丹青社取引先持株会	2,338	4.9
第一生命保険株式会社	1,907	4.0
丹青社従業員持株会	1,573	3.3
日本生命保険相互会社	1,446	3.0
JPモルガン証券株式会社	861	1.8
MSCO CUSTOMER SECURITIES	727	1.5
東京海上日動火災保険株式会社	647	1.4
株式会社テクノ菱和	643	1.3

※ 持株比率は、自己株式（318,354株）を除いて算出しております。

株主メモ

事業年度	2月1日から翌年1月31日まで
配当金受領株主確定日	期末配当1月31日／中間配当7月31日
定 時 株 主 総 会	毎年4月
株 主 名 簿 管 理 人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連 絡 先	東京都府中市日鋼町1-1 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 Tel.0120-232-711（通話料無料）
同 郵 送 先	〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場金融商品取引所	東京証券取引所 プライム市場
公 告 の 方 法	電子公告により行う 公告掲載URL https://www.tanseisha.co.jp/ （ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。）

撮影：RINO KOJIMA（ライツ撮影事務所）、株式会社レベル9、株式会社ナカサンドパートナーズ、
Green film 仲信達也

ここを動かす空間をつくりあげるために。

株式会社 丹青社

〒108-8220 東京都港区港南一丁目2番70号
Tel. 03 (6455) 8100 (代表)
Fax. 03 (6455) 8220 (代表)

